

県内の発電量 再エネ | 割強

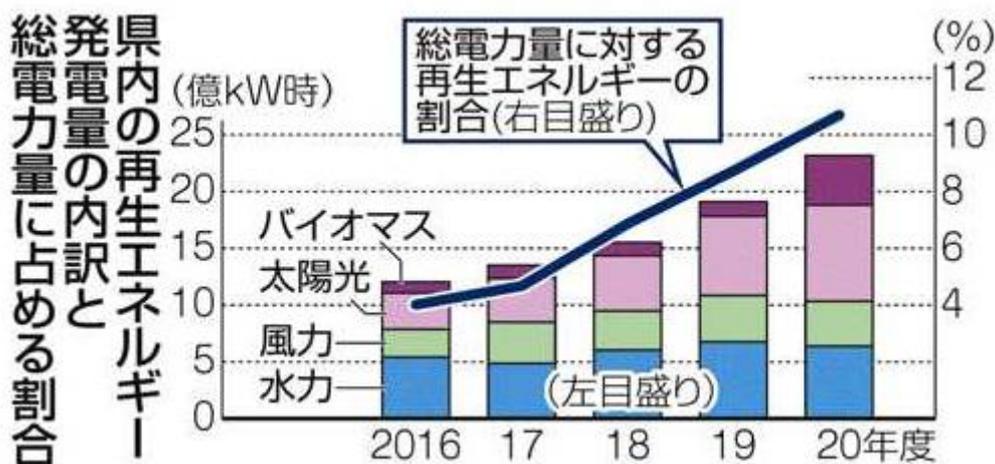
資源エネルギー庁によると、二〇二〇年度に県内で電気事業者が発電した電力量のうち、再生可能エネルギー分は約二十三億キロワット時で、全体に占める割合も一六年度の4.2%から10.3%に上昇した。中でも風力の発電量は全国四位、太陽光は五位と上位を誇る。

風力の発電量が県内で多い理由として、日本海側から伊勢湾に抜ける風の通り道となる青山高原から度会町にかけて、日本最大級の発電所が設置されていることが挙げられる。太陽光発電は、年間の日照時間が全国九位（二〇年度）と比較的晴天に恵まれ、発電所の数も昨年三月時点で百四十一と全国で五番目に多いことなどが影響した。

改正地球温暖化対策推進法が四月に全面施行され、温室効果ガスの排出削減に向け、地域の資源である再エネの活用を地域に強く促す内容が盛り込まれた。

国や県は、二酸化炭素(CO2)削減に加え、地域の再エネ電源の維持・拡大、地域経済への貢献につながるとして、電力の「地産地消」を進めている。県は、県内の再エネ発電所による県産電力の利用拡大を推進しており、当社が入る百五銀行のビルでも水力由来の電力を使用している。豊富な県産再エネを活用し、脱炭素化と地方創生の動きが広がることが望まれる。

(コンサルティング事業部 調査グループ 主任研究員 谷ノ上 千賀子)



※グラフは中日新聞記事より転載

中日新聞「データを読む (百五総合研究所 谷ノ上千賀子さんに聞きました)」

2022年6月9日